

週報



2006～2007 年度

2007年 2月19日第1817回 本年度第25回

国際ロータリー
第2560地区

SanjoMinamiRotaryClub

【出席率】 会員61名中45名

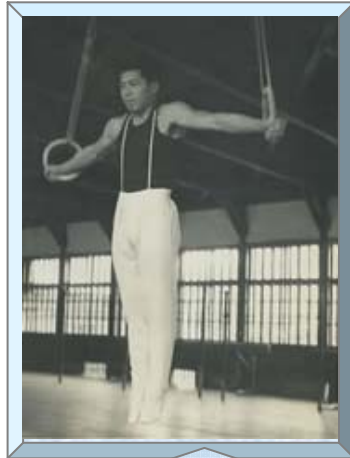
【先々週の出席率】 98.28%

【ビジター】 三条RCより 斎藤弘文さん

【先週のメイクアップ】

2/8 燕RCへ	天田 匡君	星野健司君
2/15 加茂RCへ	飯山勝義君	
2/16 吉田RCへ	木原 崇君	
2/17 米山奨学セミナー（三条）へ		丸山徹夫君
2/17 ロータリー財団セミナー（新潟）へ		野崎正明君
	鈴木圀彦君	田代徳太郎君

2006～07年度
クラブ会報特別企画



あの人 あの時
石山 荘一 君

会長挨拶

馬場 一敏 会長

挨拶致します。

先週の月曜は休会でしたが、そのお休みの10日（土）～12日（月）は京都へ家族旅行をして参りました。2泊3日の観光です。1年交換留学生のレナに『日本の美の中心』を見せるためと、長男、長女との久しぶりの家族旅行を楽しむ旅でした。私は、ふた昔も前に行ったことがあります、それ以来訪ねていませんでした。旅行は妻が計画したもので、去年の秋、紅葉を見に行った時と同様の無理のない計画でした。



第一日目、2月10日は朝一番の新幹線で、京都へは午前11時頃到着しました。「のぞみ」で停車駅は、名古屋と京都のみ。好天で眩しいくらいの陽射しでした。午後一番、大原に向かいました。

■額縁寺で有名な宝泉院の庭の松や竹、苔を僧房の畳の上に座して眺めて参りました。伏見城の床で天井を造ったそうです。板は血染めだそうです。

■醍醐寺を拝観しました。通称「五大力」なのだそうです。ちょうど「大根煮」をしておりました。

■三千院は、寺というよりも平城のようでした。入口は石垣で大きな門です。寺院よりも「苔」「紅葉」を主体として庭園が美しく、新緑、紅葉の時期は素晴らしいものと思います。

国際ロータリー会長
第2560地区ガバナー
第4分区分アシスタントガバナー
会長 馬場 一敏
三条南ロータリー事務局

ウィリアム ビル ボイド [ニュージーランド]
中 條 耕 二 [三条北]
桑 原 寛 治 [加 茂]
幹 事 田 代 徳太郎 SAA 広 岡 豊 樹
〒955-8666 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
TEL 0256-35-3477 Fax 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp URL <http://www.sanjo-minami.jp>

- 夕方、通称金閣寺に行きましたが、新しく改装された金箔が光輝き、池に映った姿は荘厳でした。大勢の観光客でごった返しておりましたが、その観光客は中国、韓国を主体の外国人ツアーで、さすが京都、世界遺産の都市と感じました。レナは、庭園や寺院についてはよく理解できないようですが、観光客が感心しているので大切なものであると少しは感じたようです。しきりにビデオ撮影しておりました。中でも金閣寺については多少の知識があったのか、一生懸命ビデオを撮り喜んでおりました。

二日目は朝食後、映画村に行きましたが、

- 開館前でしたので、タクシーで嵯峨野の竹林の道に出かけました。整備された竹林の小道を多数の観光客が歩いており、私たちも車を途中で止め、すがすがしい朝のひと時、竹林の散歩を楽しみました。運転手の話では、嵯峨野の筍は食べられないものだそうです。食べる筍は場所が違うとのことでした。
- 映画村ではセットやトリックを見たり、「忍者服部半蔵」の観劇も致しました。30分くらいの短い、「家康の伊賀越え」を題材としたものでした。
- その後「二条城」へ。京での将軍の居住であり、城郭や建物はさすが世界遺産、見事なものです。木造建築物各部や天井、廊下など、ゆっくり見たいと思いました。城外の庭園やその他建物と壮大なものでした。
- 続いて「清水寺」へ。とても混んでいて、上り坂から駐車場まで30分かかり雑踏もすごいものでした。清水寺まで、みやげ売場の坂は長く大変でした。そして、『清水の舞台』に昇ってもレナにはなんだか分からない様子。みやげ売りをどんなものがあるのか冷やかして歩き、違う場所で買った方が良いのか、など考えていました。



- 3時30分に「舞妓」の着付け、化粧を予約しており、娘とレナは舞妓に変身して写真を撮ったようです。その時間（約3時間）、私と長男は近くの高台寺、秀吉の妻 寧々のお寺を参拝しました。まさか清水寺に近接しているとは思いませんでした。

- レナ達の舞妓への変身が終わらないため高台寺から霊山寺へ、この寺には坂本龍馬の墓があり、幕末の志士や明治の元勳の墓があります。明治政府による先覚志士のためのお寺で、今日では「維新の道」と呼ばれる史跡公園です。公園と言っても、山の中の墓、上るにも降りるにも大変な坂で全部見るのをあきらめました。足が痛くてどうしようもない状態でした。

私は二日間で相当歩き、足がつるほど痛くなり、見物をやめ6時30分頃ホテルに戻り休みました。

三日目の12日は、みやげ物を買うために祇園に行きました。八坂神社の前ですが、お茶屋のある所は京都本来の古い町並みで保存されており、午前中は観光客は多くありませんが、やはり夜にならないと雰囲気が出ません。私達は特に土産について考えなかったのですが、祇園通りのお店は老舗が多く、見るのは良いのですが値段も高く、高校生の買えるものではないことがわかり、昨日行った清水寺の土産売場に戻り、レナの買い物に付き合いしました。考えてみれば、高校生の修学旅行の時のみやげ物屋が一番でした。午後4時半頃京都を出、自宅には9時頃に到着、3日間の旅は終わりました。

3日間旅をして一番残念だったことは、レナが日本食を食べられないことです。最初から分かっていたので、昼、夜は外食、朝はバイキングで食べられる物を食べると決め、覚悟していたのですが、お蔭で京都の名物「豆腐料理」は全く食われず、レストランもきのこ、魚介類の入ったものは全てダメ。どうにもならないので、サンドイッチやマックのハンバーガーなどを数回食べ、京料理は全く口に出来ない旅行でした。

食べ物の好き嫌いは仕方ないのですが、食べることにもっと挑戦して欲しいと思います。お陰で食費が安く、予算面では助かりましたが、物足りない旅となりました。もちろんレナも食べるものがなくて大変だったと、よく我慢していたと思います。せめて1回位、全員で京料理を味わいたかったと今も残念に思っています。しかし、レナを口実に久しぶりに娘と旅行に出られたことは、レナに感謝したいと思います。一日も早く、日本料理を食べられるようになって帰国することを願い、本日の挨拶を終わります。

幹事報告

田代 徳太郎 幹事

- RI第2580地区ガバナー事務所より、「第8回ロータリー国際囲碁大会」のご案内
開催日 2007年 4月13日(金)～15日(日)
開催地 韓国・大邱市
登録料 13,000円

一週間を振り返り・・・心とむほほえましいお話をBOXに

ニコニコボックス

～ 2月19日 30,000円 今年度累計 716,000円 ～

- 馬場（一）君 渡邊光郎さん、卓話よろしくお願い致します。BOXに協力して。
田代君 渡邊光郎さん、本日の卓話楽しみにしています。
相田君 この度の母の葬儀に際し、クラブより香典、弔電を賜わり大変有難うございました。
また、会員の皆様からご参列いただきご厚情に感謝しております。
渡邊（光）君 本日、卓話です、宜しくお願い致します。BOXに協力致します。
岡村君、熊倉君、齋藤君、坂井君、野崎君 渡邊光郎さん、卓話ご苦労様です。頑張ってください、楽しみにしています。
吉田（秀）君 オリンパスから発売予定のデジカメを買いに行ったが、カメラ屋がこの前買ったキャノンで良いと売りたいがらないので散財を免れました。
馬場（信）君 2/5（月）の第1回地区運営会について、南クラブの関係者の皆様からお集まりいただき中條ガバナー事務所の落合筆頭副幹事より、勉強会講師をお務めいただきました。資料には、田代さんの用意はあったのですが、名簿に落ちていまして大変失礼しました。改めてお詫び致します。今後このようなことがないよう気をつけます。
蕪澤君 2/5（月）三条ロイヤルホテルで開催致しました2008～09年度（馬場信彦ガバナー年度）第1回地区運営会議に出席いただき有難うございました。当日欠席の方に本日資料を配布させていただきました。宜しくお願い致します。
長谷川君 先日遠征ゴルフに西野、佐藤（栄）両先生から連れて行ってもらいました。楽しいプレーが出来ました。今日は、渡邊光郎会員の卓話を期待しております。
鈴木武さん、BOXご苦労様です。
西巻君 久々の例会です。先日の連休、クラブのゴルフで大変お世話になり、楽しい休日でした。
坪井君 当クラブゴルフ同好会沖縄旅行、大変楽しかった。同行の皆様お世話になりました。
住谷君 春の展示会（2/16～18）も無事に終わりホットしております。
田中（久）君 とうとう雪の無い冬となりそうです。この後いささか心配です。
安達君 都合で早退させていただきます。BOXに協力
石山君、坂本君、佐藤（秀）君、佐藤（嘉）君、滝口君、田中（悌）君
BOXに協力致します。
鈴木（武）君 久々のBOX担当です。ご協力有難うございました。

卓話

「スペインとドイツを視察旅行して」

渡邊 光郎 会員

この度、バルセロナ（スペイン）とフランクフルト（ドイツ）に行く機会があり、初めてヨーロッパを体験して来ました。主な目的は、バルセロナの芸術の街を体感する事とフランクフルトのメッセ・アンビエンテ（見本市）を視察することです。

今回の参加メンバーは10人で、年齢は20代後半から60代とバラバラな組合せの人達といい旅でした。

日程は2月6日（火）から2月11日（日）の6日間です。

*1日目、6日は朝一番の新幹線で新潟駅を出発、12時30分成田発フランクフルト行きで約11時間30分の長い空の旅です。フランクフルトで乗り換えてようやく第一の目的地バルセロナに着いたのは、現地時間の22時45分頃、ホテル到着は朝1時頃だったと思います。新潟を出発して約15時間の乗り物で、誰もが疲れきって口も足も重く、ただ早くホテルでお風呂に入りたい、そんな気持ちで一杯で、ホテルに到着するやバタンでした。

*翌2日目は、朝早く元気に朝食を済ませ、いざ目的のスペインが生んだ巨匠アントニオ・ガウディの芸術を堪能しに出かけました。



バルセロナは歴史のある都市ですが、近年では1992年にオリンピックを開催してから更に注目を集め、あの地中海に拓けた都市を見ようと世界中から観光客が訪れるようになったと云われています。その中でも観光のハイライトはアントニオ・ガウディの作品が人気だと云われています。

ガウディは1852年の生まれ、日本で言えば江戸時代の末期。ガウディの作品は沢山ありますが、中でも人気のサクラダ・ファミリア、カサ・ミラ、グエル公園を見学しました。

朝9時30分にホテルを出て、天気は曇りでしたが雨は無さそうなので徒歩で散策することにして地図を頼りにサクラダ・ファミリアを目指すことになりました。街並みはどれを見ても芸術の建築です。道路に面した一般のアパートもみんな昔の芸術の産物

かと思えるほどです。勿論、中には改築したものや建築中のものがありますが、それらの建物は昔からの建物と調和して違和感がないのに驚きました。それは行政の指導なのか、街を愛する人の心なのか、改めて歴史と国民性に感心しました。

途中カタルーニャ広場を過ぎたところで、ベランダが人の顔に見えた建物がありました。カサ・バトリョという建物で波打つ正面の壁に緑や青、茶色のガラスと円盤状の白いタイルがちりばめられているのが特徴だそうです。

しばらくしてカサ・ミラ（ラ・ペドレラ）につきましたが、遠くから見ても不思議で異様な建物です。これは1906～1910年に建築した建物で、100年になるのに今も一般のアパートとして使用していました。建物の形から石切場と呼ばれていたそうです。この建物はガウディと施主が聖母マリア像の設置で意見が分かれたため、途中から助手たちが完成させたと云われています。

中にはガウディの作品と写真、また模型も展示してありました。ガウディが仕事の発想の参考にしたと云われる亀の甲羅、動物の骨組み、血管の様に無数に入れ組んだ細い木、中でも驚いたのは天井に吊るした模型を下鏡に映すことにより完成物が出来るという手法です。非常に見ごたえのある作品でした。

この辺で疲れたので一服しようと云うことになり、スペイン風に軽くビールで喉を潤し、つまみを注文、これとこれをちょっと少なめにと云って注文したはずが10人分も来て昼の軽い宴会となってしまいました。きっと言葉が通じなかったからだと思います。ほろ酔い気分を目指すはサクラダ・ファミリアへ。

このサクラダ・ファミリアは19世紀の終わりに建設が始まったそうですが、初代主任建築家が途中で辞任した為に、2代目の主任建築家に推挙されたのがガウディだったと云われています。この時、まだ、後の「神の建築家」も32歳で実績らしい実績もない時だったそうです。サクラダ・ファミリアには色々なエピソードがあります。①いつ完成するか分からない、②図面がないのにどうやって作り続けていくか、③なぜ入場料を払って工事現場を見せるのか・・・があります。

サクラダ・ファミリアは未完の大聖堂と云われて今も工事中でした。また、着工当時は正確な図面や模型もなく完成図は全てガウディの頭の中にあつたと云われていましたが、しかし、資金不足や戦争により工事が大幅に遅れた為、ファミリア委員会は彼の死後も建設が出来るよう正確な模型を作るように依頼したと云われています。この壮大な建造物を完成するには資金が必要な為、世界で唯一工事現場を見学させています。

私達も早速見学しましたが壮大さと異様さ、そして神秘的というか言葉で言い尽くせません、ただ圧倒されたのみでこれは正に石の芸術です。エレベーターで上がり、帰りは一人一人がやっと通れる階段を降りながら小さな窓からバルセロナの街を一望し、塔内の工事現場を見学しましたが、完成の想像はつきませんでした。このファミリアには何年通っても解き明かせない謎があると云われています。今完成を目指しているのは、18本の塔と主祭壇が置かれる聖堂本体です。象徴するイエスの塔は完成すると高さ170mだそうです。

この後、タクシーでグエル公園へ移動、シンボルのトカゲのモニュメント、破砕のタイルを装飾に使用した波打つベンチでゆったり休み、帰りは駅まで1,200mも歩き、初めてバルセロナの電車を体験し、無事にホテルへ到着。夕食は地元の海鮮料理とワインを味わいました。常日頃地元の方が利用するという居酒屋を体験してきました。

*3日目は、朝食後、ミロ美術館を鑑賞後、ピカソ美術館も予定していましたが時間の都合で中止し、お昼は近くのレストランでやはり海鮮料理とワインを味わい、その後自由時間を利用してホテルの近くのカテドラル聖堂を見学しました。初めて本格的な聖堂の内部を見学しましたが、主祭壇の下の地下聖堂にはバルセロナの守護聖女サンタ・エウラリアの石棺が安置されているという事で格式があつたと思います。この後バルセロナからフランクフルトへ移動、この日はホテルへ直行しておやすみなさいでした。

*4日目は、メッセ・アンビエンテ（国際消費財専門見本市）を見学。この見本市は世界中から集る一つの商談会とのことで新潟県からもたくさん出展していました。

県主催の100年物語、三条からは三条ブランド、燕からはえんブランド、他に企業独自で4～5社の出展がありました。また、各国から最先端のアイデアを取り入れた製品、業界のブランド製品、才能溢れる若手デザイナーの製品が会場を埋め尽くし、全館を見るには時間が足りない為、新潟県に関係するものを中心に勉強してきました。新潟の企業が世界を相手に戦う技術とデザインのレベルの高さに改めて敬服しました。当クラブの長谷川晴生さんの会社も出品されていましたが、中々の人気とのことでした。

私は、この世界の見本市に出展するのに各社がバラバラでなく新潟県が一つになり、「ジャパン・新潟」として大きなスペースを取った方がスケールメリットがあるのではないかと思います。いろいろ事情はあると思いますが、検討の余地はあるのではないかと思います。

*5日目は、私を含め何人かの人達が体調を崩した為、見本市へ行く人、主な観光地へ行く人、ホテルで休んで市内を散策する人と別れて自由時間にすることになり、体調不良組は市内のデパートを見学、地図を頼りに街をぶらぶらと歩き、1562年以降ローマ皇帝の戴冠式が行われたという大聖堂と昔のドイツの面影の残る街並みを散策してきました。この途中で本格的な日本食をやっと見つけ、これほどお米が美味しいものかと感動して食べました。18時にホテルに集合し、アッという間のフランクフルトを出発して日本に向かいました。

*6日目、11日 15時55分に成田へ到着。21時過ぎに新潟に無事到着です。今回の旅行で大きなトラブルもなく無事全員で帰国できたことに感謝しています。帰国後は慣れない旅で体調不良と時差ぼけで回復に4、5日はかかりましたが、楽しい初体験をしました。また機会があれば行って見たいと思っています。

四つのテスト

一言行はこれに照らしてから

I 真実か どうか

III 好意と友情を深めるか

II みんなに公平か

IV みんなのためになるか どうか